



会員事業者に聞く

会議所活用事例



大村めがね補聴器店

代表：大村 美穂
 所在地：山口県小郡町2-8-8
 TEL：083-972-0442
 事業内容：眼鏡・補聴器の販売
 HP：<https://www.omura-meganehochoki.com/>

活用した制度 小規模事業者持続化補助金、IT・デジタル導入相談会

■90歳から60歳への事業承継

当店は、新山口駅近くにある眼鏡と補聴器の販売店です。昨年、90歳の父から事業を引き継ぎました。私は20代から家業に入り眼鏡を担当。数年前から事業承継のことは気になっていましたが、時計職人として精力的に働く父を見ているとつい先延ばしになってしまい、最終的に家族で決めたのは店舗の老朽化による移転がきっかけでした。



■専門家の力を借りながら一歩ずつ前進

旧店舗からも近い自宅の一部を改装して移転。販売体制を強化するために新たな機械導入など資金も必要になることから、まず商工会議所に相談に行きました。そこで、小規模事業者持続化補助金や山口県創業広告支援補助金の活用提案があり、慣れない事業計画作成など大変でしたが無事に採択されました。また、相談の中で事業承継に係る手続き等の不安を伝えたところ事業引継ぎ支援センターやよろず支援拠点に繋いでいただき、色々な方の力を借りながら一歩一歩進むことができました。今はIT・デジタル導入相談会を利用して、Googleビジネスプロフィールの活用など苦手なデジタル関係にも挑戦しています。



■事業承継を機に補聴器販売を強化

これから私が力を入れていきたいのは補聴器販売です。補聴器は父の代から販売していましたが、ここ数年特にお客様からお悩みを聞くことが増えたため5年前から本格的に取扱

を開始しました。一昨年に認定補聴器技能者資格を取得し、現在は来年の認定補聴器専門店承認に向けて頑張っているところです。

補聴器は高齢者には操作が難しいので、やる気が続かず途中で使わなくなる方もいらっしゃいます。高価な物ですし、お客様がなぜ聞こえるようになりたいのかをしっかりと聞き出し、ご本人とご家族で納得して購入を決めてもらう事が使いつけるために大事だと考えています。また、補聴器は購入後半年から1年は細かいメンテナンスが必要です。高齢者の中には家族に気を使う方も多いので、病院と同じように地域内自力で相談に行ける場所(認定店)が必要だと考えています。



■お客様の持つ力を補い快適をお手伝い

補聴器も眼鏡も聴力や視力を治すものではなく、補い助けるものです。医療機関と連携してお客様の見たいたい聞きたいを助けることで、人生が快適に過ごしやすいお手伝いができればと思っています。眼や耳の衰えはみんな通る道です。私も近い将来補聴器のお世話になるかもしれません。そしたら、もっとお客様の気持ちに寄り添ったサービスができるかもしれませんね。これからもお客様一人一人としっかり向き合い、眼や耳の不安があるならとりあえず当店で相談してみようと言って貰えるお店になれるよう頑張っていきます。



聴力検査室